

総資金需要の増減は、売上高の変化と各資産の回転速度(回転期間または回転率)に起因することを解説しました。ただ売上高の激減等によって欠損金が発生するような場合は、**欠損金補填のための資金需要が発生します**。この場合は、本例のアルゴリズムが必要とされます。

資金需要の増加に対処するために資金調達(借入、増資)が発生する原因について考えてみます。

**売上高の増加**・・・回転速度が異常に早くならない限り、受取勘定や棚卸資産の資金需要が発生します。・・・**増加運転資金**

**設備等固定資産の増加**・・・**設備資金**

上記は、おおむね健全な資金需要といえます。それに対して

**受取勘定、棚卸資産の異常増**・・・売上高の増加以上の著しい増加(回転期間の鈍化)あるいは売上高の著しい減少にもかかわらず、減少しない。・・・**回転期間の鈍化**(一時的・構造的な原因による**一種の企業救済資金**)

**欠損金の発生**・**増加**・・・**全くの救済資金**

これらは、**健全といえない資金需要**です。収益の低下によって $u'$ (予想売上利益率) $< 0$ すなわち欠損金の発生、増加が予測される場合の総資金需要の変化は、各資産構成比

率と倍率の積和にさらに欠損金による資金需要を加えたものであるという考え方が基本になっています。

$\frac{(m-u)F-m's}{u} \cdot G$  が予測される欠損金であり、かつ欠損が発生するかどうかの判

定は、 $(m-u)f > m's$  になるか否かによって行う仕組みになっています。